

# 朝日歌壇俳壇



## 高山れおな選

- 戦争を始めた男唄れる  
 存在やエイプリルフルの間に湧く  
 一列に並ぶ釣人(つりひと) 騒気(さわぎ) 棲(すま) 楼(ろう)  
 竜天に登るや宮津(みやつ) 湾(わ) 荒(あ) るる  
 賢者(けんじゃ) め(め) さ(さ) め(め) よ(よ) 虫(むし) 出(で) し(し) の(の) 雷(かみなり) と(と) 一(いつ)  
 松山(まつやま) 市(し) 杉山(すぎやま) 望(のぞ) 望(のぞ)  
 上尾市(かみお) 宮本(みやもと) 幸子(ゆきこ) 幸子(ゆきこ)  
 大和郡山(やまと) 市(し) 宮本(みやもと) 正勝(まさかつ) 正勝(まさかつ)  
 稲城市(いなぎ) 市(し) 坂田(さかた) 篤義(あつぎ) 篤義(あつぎ)  
 川崎市(かわさき) 市(し) 多田(ただ) 敬(たかし) 敬(たかし)  
 越谷市(こしがや) 市(し) 高津(たかづ) 亜紀(あき) 亜紀(あき)

【評】加藤さん。客観的に叙して姿はなだらか。「唄れる」がいかにも辛辣だ。鈴木さん。句が由来する事象は一席と同じだろう。ただし、さらにもう一段の屈折を感じるが、竹内さん。釣人の列そのものが騒気楼のような頼りなさではないか。

## 小林貴子選

- ひらいててもコブシ  
 耐へらるるほどの孤独と花吹雪  
 菜園も竹の子(たけのこ) 藪(やぶ) も家の前  
 二歳児(にさいご) に姉御肌(ねご) あり春の園  
 かふんし(かふんし) しょうく(しょうく) しゅんく(しゅんく) しゅんく(しゅんく) さ(さ) か(か) あ(あ) が(が) り(り)  
 縄文(じゆんぶん) と(と) 姿(すがた) ら(ら) め(め) わ(わ) れ(れ) や(や) 磯遊(いそあそび)  
 亀五匹(かめごひき) 重なり(かさね) どれか(どれか) 鳴(な) く(く) を(を) 待(まち) つ(つ)  
 姉(あね) 逝(い) き(き) ぬ(ぬ) 甥(へい) 等(ら) 姉(あね) 等(ら) と(と) 花(はな) の(の) 刻(とき)  
 夕霞(ゆふが) 妻(つま) ある(ある) 如(ごと) く(く) 花(はな) を(を) 買(か) う(う)  
 礼幌市(れいぼう) 市(し) 三船(みつふね) 悦子(えつこ) 悦子(えつこ)  
 東京都杉並区(とうきょうとすぎなみ) 区(く) 漆川(うるしがわ) 夕(ゆふ) 夕(ゆふ)  
 袖ヶ浦市(そでがうら) 市(し) 浜野(はまの) ま(ま) える(える)  
 静岡市(しずおか) 市(し) 名田(なだ) 幸一(ゆきいち) 幸一(ゆきいち)  
 越谷市(こしがや) 市(し) 宮津(みやつ) 亜紀(あき) 亜紀(あき)  
 大津市(おおい) 市(し) 中村(なかむら) 良一(りやういち) 良一(りやういち)  
 西条市(さいじょう) 市(し) 稲井(いなゐ) 夏炉(なろ) 夏炉(なろ)  
 伊那市(いな) 市(し) 北原喜美恵(きたはらきみゑ) 北原喜美恵(きたはらきみゑ)  
 北九州市(きたきゅうしゅう) 市(し) 野崎(のさき) 仁(に) 仁(に)

【評】一句目、ひらがなの形は優しい。「さくら」と書けば象形文字のよう。二句目、耐えられない孤独には見舞われないように生きていきたい。三句目、豊かな土地がらがうらやましい。四句目、「がうな」(ごうな)は寄居虫、春の季節。

## 長谷川權選

- 戦争で始まるニュース春の朝  
 花の下深き眠りの石舞台  
 戦地(せんち) から(から) 来(き) た(た) や(や) う(う) に(に) 飛(と) ぶ(ぶ) 濡(ぬ) れ(れ) つ(つ) ば(ば) め(め)  
 はるか(はるか) 沖(おき) ま(ま) で(で) 点描(てんがく) の(の) 潮(うしほ) 干(ひ) 狩(かり)  
 花見酒(はなみさけ) 大(おほ) 統領(ていりやう) を(を) こ(こ) き(き) 下(くだ) ろ(ろ) す(す)  
 幼木(こどもぎ) の(の) 精(せい) 一(いつ) 杯(はい) の(の) 桜(さくら) かな(かな)  
 三度目(さんどめ) の(の) 吉野(よしの) は(は) 閑(か) 花(はな) の(の) 雨(あめ)  
 い(い) か(か) な(な) を(を) 鍋(なべ) 一(いつ) 杯(はい) に(に) 焚(た) き(き) し(し) 日(ひ) も(も)  
 桜(さくら) 員(いん) 波(な) の(の) か(か) た(た) ち(ち) に(に) 並(なら) び(び) け(け) り(り)  
 スーツ(すーと) ケース(けーす) ガラ(がら) コロ(ころ) ガラ(がら) 春(はる) 休(やす) み(み)  
 横濱市(よこはま) 市(し) 白川(しろがわ) 修(しゆ) 修(しゆ)  
 伊丹市(いたん) 市(し) 保理江(ぼりえ) 順子(じゆんこ) 順子(じゆんこ)  
 浜松市(はままつ) 市(し) 尾内(おしうち) 甲(か) 太郎(たろう) 甲(か) 太郎(たろう)  
 横須賀市(よこすか) 市(し) 榎本(えのもと) 二郎(じらう) 二郎(じらう)  
 日進市(ひしん) 市(し) 松山(まつやま) 眞(まこと) 眞(まこと)  
 松山市(まつやま) 市(し) 正岡(ただおか) 唯真(ただまこと) 唯真(ただまこと)  
 岡山市(おかやま) 市(し) 三好(みやう) 泥子(でいこ) 泥子(でいこ)  
 大阪市(おおさか) 市(し) 山内(やまうち) 藤彦(ふじひこ) 藤彦(ふじひこ)  
 飯野(いひの) 日々(ひび) 々(々) 子(こ)  
 音屋市(ねや) 市(し) 劉(りゅう) 葉子(えいこ) 葉子(えいこ)

【評】一席。自分ではじめて自分では終わらせられない。「トランプの戦争」。二席。積み重なる巨大な石の眠りである。ひんやりと。三席。昔の士官を思わせる姿。十九世紀の戦争か。十句目。「ガララ」がうまい。あの騒々しさを歌にした。

## 大申 章選

- 百歳のピアノの音色春の朝  
 六回目の転校先で卒業す  
 一人死にひとり産まれて鳥の春  
 老一人絵本みてる春夜かな  
 四阿(よつあ) の(の) 椅子(いす) は(は) 切株(きりぐし) つ(つ) ば(ば) め(め) 来(き) る(る)  
 能面(ねんめん) の(の) 表(おもて) 情(なさけ) 豊(ゆたか) か(か) 花(はな) 簪(かんざし)  
 少子化(せうこか) の(の) 村(むら) に(に) 満開(まんがい) の(の) 花(はな)  
 村(むら) の(の) 名(な) の(の) ま(ま) た(た) ひ(ひ) と(と) 消(け) ゆ(ゆ) 山(やま) さ(さ) くら(くら)  
 街(まち) 騒(さわ) ぎ(ぎ) に(に) 遠(とほ) く(く) 落(お) 花(はな) を(を) 御(ご) 祈(いの) す(す)  
 春(はる) 愁(せう) や(や) 空(そら) き(き) 家(いへ) の(の) 増(ぞ) ち(ち) む(む) る(る) 村(むら) に(に) お(お) て(て)  
 鳥原市(とりはら) 市(し) 岡崎(おかざき) 潤子(じゆんこ) 潤子(じゆんこ)  
 大村市(おほむら) 市(し) 小谷(こや) 一夫(いちふ) 一夫(いちふ)  
 大谷市(おほや) 市(し) 岩神(いわがみ) 刻舟(こくしゆう) 刻舟(こくしゆう)  
 大阪(おおさか) 市(し) 島田(しまだ) 和子(わこ) 和子(わこ)  
 東京都杉並区(とうきょうとすぎなみ) 区(く) 齊藤(さいとう) 保志(たけし) 保志(たけし)  
 国分寺市(くにがみ) 市(し) 後藤(ごとう) 真里子(まさと) 真里子(まさと)  
 い(い) わ(わ) き(き) 市(し) 佐藤(さとう) 朱夏(しゆか) 朱夏(しゆか)  
 長野市(ながの) 市(し) 縣(かたがは) 展子(てんこ) 展子(てんこ)  
 柏市(かし) 市(し) 藤嶋(ふじじま) 務(む) 務(む)  
 加古川市(かこがわ) 市(し) 森木(もりぎ) 史子(しこ) 史子(しこ)

【評】第1句。百歳のお年寄りがピアノを弾いておられる。ピアニスト室井摩耶子先生が思い浮かぶ。第2句。六回目転校を重ねてやっと卒業。転勤族のお子さんか。第3句。こうして「鳥」は子孫に引き継がれてゆく。「鳥の春」が明るく健やか。

北村さゆり

## 俳句時評 石田波郷新人賞を読む

岸本 尚毅

石田波郷新人賞の授賞式が先月、江東区砂町文化センター石田波郷記念館で行われた。三十歳以下を対象とする二十句の競作。選者三人も五十歳以下で、俳句の賞としては比較的若い。  
 応募は百二十九篇。正賞は二十歳(受賞当時、以下同じ)の辻村栗栖。受賞作の一つ「茶の花や寮生が掃く寮のまへ」は学生寮のたたずまい。「寄居虫や灯台の絵を売り暮らす」は海辺の町に住む人物。自分で描いた絵を街頭で売るのが。

「小名木川夜景のなかを細く牙え」は下の古い運河の景。「夜景のなかを細く牙え」は、景の細部を略しつつ東京の近代を叙情的に捉えた。もしかすると、久保田万太郎の「神田川祭の中をながれけり」にヒントを得たのかもしれない。  
 準賞の篠原圭太は二十二歳。「かかなかや錠刺(じやうさ) 尽きて瓶(びん)に粉(こな)」は些事を詠みつづヒグラシの青に感興を見出した。準賞の堀内晴斗は二十歳。「木の棒が氷菓の中に透けてゐる」は素朴な眼差し。賞創

設の功労者の名を冠した大山雅由記念奨励賞の伊藤富浦は二十三歳。「秋めくや墨絵に白き屋のある」の巧みに驚く。  
 選者の西村謙輔は、波郷に作品が似ていなくても、波郷のような熱い心や高い志を持った作者は大歓迎だといふ。  
 この新人賞は東京都清瀬市の事業として発足。諸事情により二〇二三年に終了したが、この第十六回から江東区主催で再開。波郷が結核の療養をした東京病院のある清瀬市から、波郷が十数年暮らした北砂町のあった江東区へ。波郷にゆかりの両自治体の間で波郷新人賞が継承されたことを喜ぶたい。(俳人)

◆5月3日付の朝日歌壇俳壇面は休載します。

第70回現代歌人協会賞 小原奈実さんの「声影記」(港の人)と貝澤駿一さんの「ダニー・ボーイ」(本阿弥書店)に決まった。第24回前川佐美雄賞 ながらみ書房主催。日高亮子さんの歌集「日在浜」(角川書店)に。第34回ながらみ書房出版賞は屋良健一郎さんの歌集「KOZA」(ながらみ書房)に決まった。

☆は共選作。入選作はデジタル版などに掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(選に2作品まで)。QRコードから。